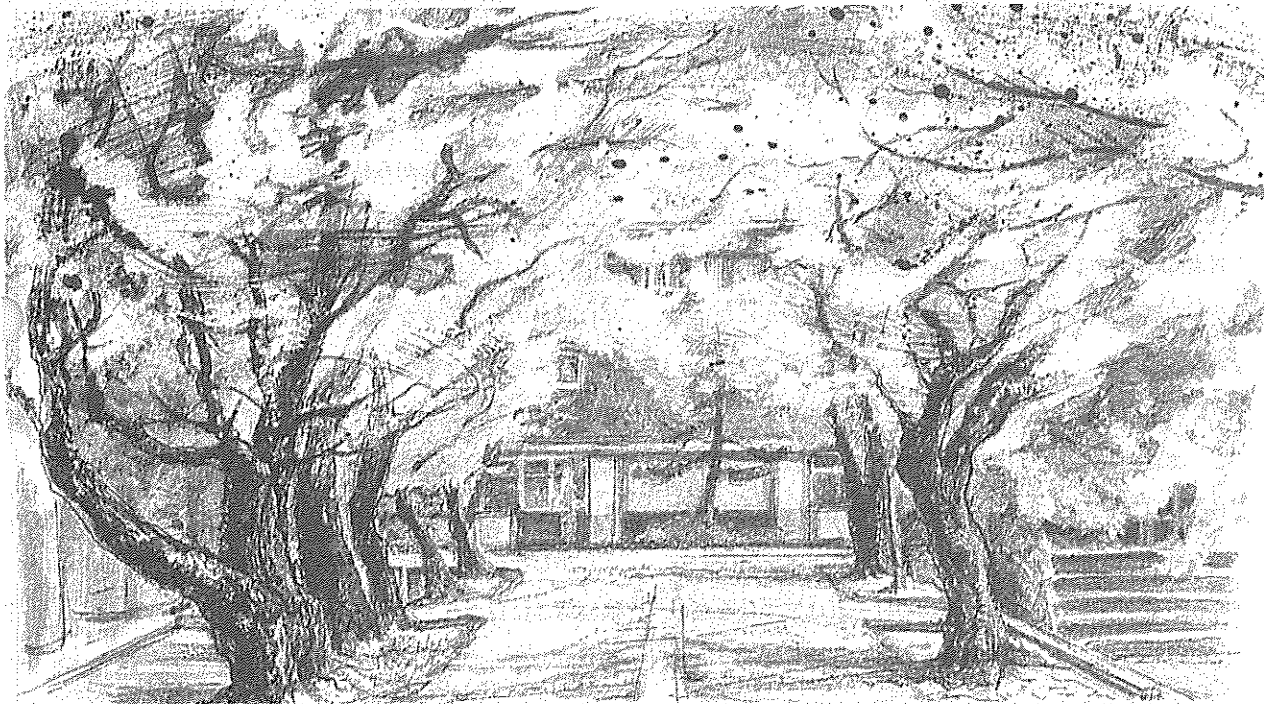


# 同窓会会報

第46号

平成10年8月23日発行

富山県立上市高等学校同窓会



## 創立80年を迎えて

同窓会会長代行 伊東 政信

中川喜久夫同窓会長が病氣療養中につき、代わってごあいさつを申し上げます。

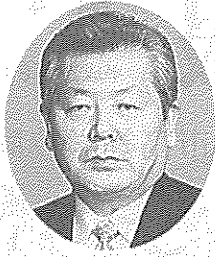
母校上市高等学校が、学校長を中心に教職員一丸となってさまざまな輝かしい成果を取めていることは、同窓会員一同この上もない誇りと思っております。中でもボクシング部、空手道部を初めとする運動部の活躍ぶりは、間近に迫った2000年団体に向けて頼もしい限りであります。

さて、大正9年郡立新農学校として産声を上げて以来幾多の変遷を経て、昨年総合学科単独校として新しい歴史を刻み始めました母校は、平成11年に創立80年を迎えます。同窓会員総数も19,849名に上り、各界で活躍されていることは、誠に同慶の至りであります。

そこで、同窓会として、創立80年の記念事業を企画推

進して参りました。主な事業内容は、食堂の建設を目指す募金活動、および母校のシンボルでもあります桜並木の補修を主体とした教育環境の整備を支援していくことになりました。会員各位には、この記念事業についてご理解いただき、一層のご協力と、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりになりましたが、前同窓会長として本会の発展に尽くされました柳瀬菊太郎先生が、かねてより病氣療養中のところ薬石効なく7月13日(日)に永眠されました。柳瀬前会長には、永年母校に勤務され、特に昭和62年4月より2年間は校長として、母校の発展に尽力されました。ここに、先生の功績を讃え、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



## 正門からのサクラ並木

富山県立上市高等学校長 新 畑 彬

本校の自慢のひとつに正門（白龍橋側を南門、剣嶺会館側を北門）からのサクラ並木がある。正門から正面玄関までの両側に並んでいるサクラ樹木は、蒼むしていたりして歴史と伝統を感じさせる重厚なトンネルになっている。

このようなサクラは、古くから日本を代表する花として、認識されてきたのかと思つたらそうではないようである。日本樹木医会の近藤会長によれば、「万葉集」ではハギ、ウメが100首詠まれサクラが40首詠まれていることから、当時のサクラへの関心はそれほどではなかったのだという。「古今和歌集」の頃になってサクラの方が多く詠まれるようになり人々の関心が次第にサクラに変わっていったのだと分析されている。

古くは、サクラといえばヤマザクラやエドヒガンを指していたようだが、その後ソメイヨシノやサトザクラが好まれるようになり、とくにソメイヨシノは江戸時代に世に出て以来明治時代には集中的に植栽されるようになったらしい。

本校正門のサクラ並木は、ソメイヨシノであるが、本校70年史によれば昭和2年10月に63本のサクラ苗木が購入されたことになっている。また生徒が植えたと考えられているので、昭和3年3月卒業（上市農学校第5回）あるいは昭和4年3月卒業の皆さんの手によるものと考えられる。何年生の苗木であったかは定かではないが、75年前後は経つていることになる。ソメイヨシノは短命で平均寿命が60年とも70年ともいわれているから、本校のソメイヨシノは平均寿命をはるかに超えていることになる。

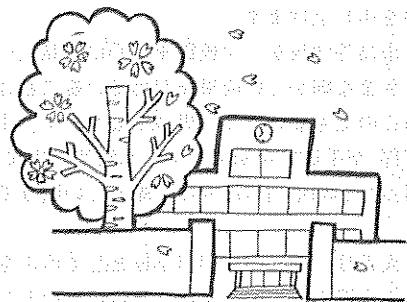
現在のサクラ並木は、本来確かに植栽されていたと思

われる箇所でありながら枯れてしまったのか跡形も無かつたり、あるいは新たな苗木が補植されていたりしている。これらをすべて本数に数えると丁度63本になる。今年には野鳥の被害も少なく見事に花をつけてくれた。

入学式を終えた親子がこれらをバックに、記念写真に収まっている微笑ましい光景があちこちに見受けられた。来賓としてご出席いただいた伊東尚志町長（昭和38年卒）さんも愛用のカメラにおさめておられた。

しかしながら、これらの樹木の中には、枝・胴枯性の病原菌等に冒されて重病と診察されているものもかなりあり、これらには適時に樹勢回復の手当てをして、いつまでも本校自慢のひとつとして咲き続けて欲しいものと願っている。

同窓生のみなさんには、馴染み深いなつかしいサクラ並木であります。折りがありましたら、是非お立ち寄りください。終わりにになりましたが、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈りしてご挨拶といたします。



# ◇◇◇ 思 い 出 ◇◇◇

## 卒業50年

### 激動期における体験学習

昭和18年、4月上市農林第二種一学年に入学しました。朝の朝礼「富山湾……勤労と自治と向上」の校歌を斉唱、授業は小学校とはかなり違い岸先生の生物は面白く興味を持ちました。軍事教練は軍人勲諭の暗誦、金澤師団長の査閲行進練習。体力作りは、春は魚津往復マラソン、秋は本銃を担いだ城山団体登頂競技、寒稽古、常願寺河原での雪上兎狩りにおいて、配属将校より厳冬期に北アルプス越えした佐々成政の話聞き感動したものです。また、教育方針徹底のため先生・上級生から愛の鞭をいただき度胸がつき、少年時代に受けた精神・肉体面の影響は今日にも大きく影響していると思われま

す。農場実習では丸山農場の開墾、さつまいも栽培など行いました。あるとき、戦闘機の燃料となる松の根掘りをしていると、澄み切った空をB29一機が銀翼を輝かせて巡航し、敗戦を予感させられたものです。

昭和20年、4月第一種農業科一年になってからは、食糧増産のため農家の勤労奉仕、水害復旧工事に動員されましたが、授業を受けることができたのは幸いでした。8月1日早朝、富山市大空襲、5日には戦災跡地整理に動員され、面白がって不発の焼夷弾に石を投げつけると爆発するので作業中止となり乾パン1袋貰って帰りました。

上市高等学校農業科 第1回 (昭和24年3月卒業)

### 石坂昇助

た。

8月15日終戦となり様々な噂が流れるなか、今まで受けた教育は何であったのか、空しく感じられました。

終戦後は教育の大転換で先生方も大変だったと推察いたします。なかでも長谷川先生のユニークな英語教育により民主化教育に目覚めたといっても過言ではありません。また、定かでない教科書の時代、農業実習は体験的に覚えた実学問であり、現場をよく観察・実証し理論づける基礎を示して下さいました。

昭和23年4月学制改革・学区制施行により普通科、家政科が新しく設置され、私は新制高等学校農業科に編入しましたが、女人禁制のような学校で育った無件者には戸惑いのまま、1年間の学校生活が過ぎた次第です。

以上、私達の少年期は勉強の基礎学習が不足しております。しかし、私は定年後、世界で最も寒い、また最も暑いと言われる国の稲作技術開発に6年参加し、現在外資系会社で稲作りを行い得るのは、母校の校訓による強靱な精神“上農魂”を鍛えて下さった先生、先輩、同僚の皆様のお陰と深く感謝いたしております。

母校上市高校および同窓会員諸氏のご発展を祈念いたします。

## 卒業40年

### 新しい体制での発展を

昭和63年4月、縁あって、農業科の教員として母校に勤務することになり、その年の同窓会の総会で「卒業30年回顧談」を行った。「あれからもう10年か！」更に、高校生時代に遡ってみる。

「入学した昭和30年11月に「第一回校内マラソン大会」が行われた。と「七十年史」に記されている。現在も続いているマラソン大会である。当時は、学校～大岩の往復コースで、ジャリ道であった。私は心臓疾患のため、出場停止の身であったが、「何とか人並みに」と先生には内緒で走った。記録・順位はともあれ、3年間完走した。我が家の前を通るコースであったので、往復とも家族や近所の人達の声援を受け、その場だけ頑張った気がする。当時の陸上部は、全国高校駅伝に出場は当然の事で、走

上市高等学校普通科 第10回 (昭和33年3月卒業)

### 土肥博

れない私は、心から応援していた。大阪での全国大会のラジオ放送に時々聞える上市高校の名前にゾクゾクした。

私は3年生になった昭和32年4月に「農業課程」が新設され「珍しい物」程度の思いであった。道路沿いの自転車置場の辺りに、家庭科の実習室と農業実験室があった。私は農業科の教員として奉職できた巡回会いに感謝申し上げたい。ところが、種々の事情により、平成9年3月を以って、正味40年間、千二百余名の農業人を輩出した農業科の幕を引くことになろうとは、何と運命のいたずらか。学校の正面玄関の左側に、記念碑を建てさせていただいたことに感謝し、母校を去った。思い出すまま、高校生時代の一駒、奉職した時代の事等を綴った。新しい体制での母校の発展を祈念し、筆を置く。

## 卒業30年

上市高等学校薬業科 第20回 (昭和43年3月卒業)

### ただ今48歳

碓井 秀明

48歳、上市高校を卒業してから30年、早いものである。

上市町で生まれ、小学校から高校まで上市で学べたわたしは幸福者である。どこにいても必ず近くに友達がいるのは時には大きな力であり、どんな会合に参加してもだれかに会えるのは楽しみのひとつである。

母校上市高校は自宅から自転車で10分だが、正面から入ったことはない。だから上市高校と言ってまず目に浮かぶのは、農林工学の校舎と食堂の建物である。当時の薬業科といえば、女子9人、男子41人の大所帯で、男子は悪が多かったが、女子は美人が多かった。(だが、ミニスカートではなかった。)

あのころは、秋は台風、冬は大雪で剣岳一帯では遭難が相次いだ。担任の、今は亡くなった酒井先生が捜索隊に加わり、何時間も授業がなくなって、みんな飛び上がって喜んだことも、今はなつかしい。運動会の思い出は

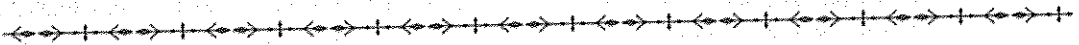
少ないが、学校裏から眼目山に向かって走ったことが思い出される。

薬業科の実験は面白かった。いろいろな果物の香りを使った実験や、硫酸銅の結晶を作ったりもした。また、今思えば大変なことだが、硫化水素を吸って倒れる者もいた。一昨年をもって、薬業科がなくなったことは残念である。

今、気持ちは18歳と若い。昨年薬業科の同級会に参加したが、30年前のホームルームと変わらず、楽しいものであった。途中、亡くなられた担任の先生に対し黙祷を捧げ、今後も毎年同級会を続けようと呼び合った。

高校生活はもちろん、月日の経つのは早いもの。一日一日を大切に生きたいと思う。

最後に、上市高校と同窓会の御発展を心からお祈り申し上げます。



## 卒業20年

上市高等学校普通科 第30回 (昭和53年3月卒業)

### 目標を持つこと

前田 篤

母校を卒業して、はや20年の歳月が流れたかと思うと自分の年齢に驚きを感じる今日この頃である。

私が入学した当時は、老朽化した体育館や一部木造の校舎であり現在のように整った施設ではなかった。その当時としては他の高校もそうであったと思うが……。

校舎は老朽化していたが、我々生徒の方は多少なりとも目標を持って学校生活を送っていたように思う。そういう目標を持っている生徒の目は輝き、生き生きしていたようにも思われる。

現在、教育現場は不登校・いじめ・無気力な生徒等さまざまな問題を抱えている。原因についてはいろいろあると思われるが……一般的によく言われることは、家庭・学校・地域等が連携を密にして取り組んでいかなければならないと言われるが、視点が不透明なような気がする。

私事であるが、私自身高校時代は決して優等生と言うにはほど遠い生徒であり、父兄召還や謹慎を受けたこと

もあった。ただその頃一人の体育の先生に憧れを抱いていた。その先生は、ある全校集会時に1000名程のザワザワしていた生徒を無言で静粛させたり、我々のようなワルな生徒に対しても、決して差別することなく接してくれた。

私の中に大きな目標ができた。それは、将来体育の教師になること。

目標を持ってからの私の考え方や行動は変わっていった。高校卒業後は体育系の大学に進学し、目標である体育教師となった。現在、県教育委員会に勤務し2000年とやま国体に向けた仕事に携わっている。

高校時代その先生に会わなければ、私の目標はどうなっていたかはわからない。ただ目標を持つことの重要性について、その時認識したように思う。39才になった今でも目標を持ちつづけ、それに向かって努力していきたい。

## 素晴らしい仲間と

林 幸 一

母校を卒業して、はや10年の月日が流れました。3年間という短い期間ではありましたが、私の人生においては、素晴らしい仲間と過ごしたもつとも思い出深い3年間でした。特に印象に残っているのは、やはり丸山農場での宿泊実習です。朝5時に起床し搾乳(牛乳搾り)、家畜にえさを与え朝食後、学校へ行くという生活を一週間つづけ交代します。

こういった実習が、今の私を支えているといっても過言ではありません。動物の出産を見て命の尊さを覚え、先生方、先輩方の指導で世の中の厳しさを知り、同級生

同士、額に汗して実習に取り組み和ができて、そして人としての思いやる心を宿すことができました。

今は、農業畜産科もなくなり、代わる学科として農業科学科ができましたが、その農業科学科も残すところ最後の一学年となりました。しかし、私が素晴らしい仲間と過ごした3年間は消えることはなく、心に残ります。

卒業して10年たった今でも、一社会人として生活している中で高校時代のすばらしさを、今後も私の糧としてがんばって行きたいと思います。最後に上市高校及び、同窓会の益々の御発展を心から御祈念申し上げます。

## 支部活動報告

### 滑川支部報告



本年度滑川支部総会が、さる7月17日(金)午後6時より、滑川市民会館2階中会議室で43名の会員の参加を得て開催された。

西山支部長の挨拶に次いで、来賓の新畑校長より祝辞をいただき、議事では、事業報告、会計報告の承認の後、役員改選に入り、西山支部長の再任等向こう3ヶ年の役員体制を承認した。また、本部鍋谷事務局長より母校の近況、80年記念事業に向けての協力依頼があった。

議事後、新畑校長より「母校の将来展望」と題し、記念講演が行われ盛会のうちに閉会。この後、懇親会に入り、和やかな歓談の中母校への思いを新たにしました。

